

① 学校図書館の図書校務員の配置について

昨年度まで1校につき1名配置されていた学校図書校務員ですが、今年度2校兼務になっている学校があります。

文部科学省は1校1名の司書を置くことを目標にしています。昨年度まで文部科学省の目標を達成していた本町がなぜ本年度から逆行するようなことになったのでしょうか。学校図書館での図書校務員の仕事は本の貸出・返却だけでなく、本の注文・カバーかけ・修繕・古い本の廃棄、委員会活動の補助、読書週間の企画のほか多岐にわたります。図書校務員のきめ細かい子どもたちへの気配りのお陰で子供たちの読書意欲も高まっていると思います。

また、学校図書館は教室で過ごしやすいお子さんをしばらくの間受け入れる場所でもあります。学校図書館は保健室・心の相談室とともに子供の心のよりどころでもあると思います。

今後の学校図書館の人員配置について、どのようにしていく予定なのか質問したいと思います。

- (1) 図書校務員の欠員が出たときに補充をせず、2校兼務になった経緯を尋ねる。
- (2) 2校兼務になっている学校の図書校務員の勤務状況はどうなっているのか。また、兼務することで何か支障は出ていないのか。
- (3) 貸出、返却は、図書校務員がいない時には図書委員会の子供たちや図書教育担当の先生、担任などが担っていると思うが、現場の先生方の負担が増えているのではないか。
- (4) 子供たちの図書委員会活動に支障は出ていないのか。
- (5) 2校兼務することによって本の返却作業が滞ることが予想される。多い時には午前中いっぱいかかることがあると予想される。「読書週間」などのイベントに影響はないのか。
- (6) 学校図書館のパソコンやバーコードリーダーなどが古くてトラブルになることがあると聞くが、図書委員会の子供だけの時には対処できないと思う。このような時の防止策はあるのか。また、学校図書館が無人になる時の管理はどう考えているのか。
- (7) 2校兼務になったことで図書校務員の年休が取りにくくなることはないのか。